

令和3年度 福祉文教委員会管内視察報告書

1. 視察日

令和3年10月26日（火）

2. 視察先

高山市立北小学校

高山市立中山中学校

3. 視察項目

GIGAスクール構想の推進における学校のICT活用の現状と課題等の調査

4. 視察の目的

GIGAスクール構想に基づき、児童生徒1人1台端末環境の整備がすすめられた。

福祉文教委員会の重点調査項目である「GIGAスクール構想の推進と課題」に関する調査の一環として学校への視察を実施し、ICTの活用により、教育環境が大きく変化する中で、電子黒板やタブレットPCの利用状況について授業の風景を視察するとともに、教育現場における課題について聴取した。

5. 視察内容

ア. 概要

文部科学省は、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち1人1人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目的として「GIGAスクール構想」を推進している。

高山市においても、今年度当初までに児童生徒1人につき1台のタブレットPCが整備された。

イ. ICT活用の状況

①北小学校

（授業風景）

算数・社会・体育の授業を参観した。児童がタブレットPCを使いこなしている姿が印象的で、児童の順応性が高いことが伺えた。

体育ではダンスの授業を参観したが、ダンスの様子をタブレットPCで撮影した動画を再生し、自分のダンスする姿をチェックしていた。タブレットPCの多様な活用方法を実感した。

学習指導員が児童にタブレットPCの使用について指導を行っていた。

(学校側との懇談から)

○ICT活用の効果

- ・ICTの活用はプリントの作成等の手間が省け、教師の負担軽減につながっている。
- ・学習内容が蓄積されるため、弱いところを復習することができる。
- ・入院した児童と病室と教室をリモートでつなぎ授業に参加することが可能となり、学校のめざす姿として「つなぐ子」を目標としている中で、心をつなぐことができたことは、リモート授業の効果である。
- ・3者懇談で児童の様子や成長の過程を画像で提供することによって、児童の様子を共有することができる。
- ・ICT活用の職員アンケート

全校児童対象

画面をタッチして操作できる 100%

タッチペンで文字を書くことができる 97%

資料を作成して発表ができる 78%

3年生以上対象

キーボードでローマ字を入力できる 75%

インターネット上で目的とする情報を収集することができる 64%

○児童の声

- ・計算がしやすく、みんなの意見を聴くことができ、伝えることができる。
- ・調べたいことを直ぐにインターネットで調べることができ、調べた情報をタブレットPCに保存することができることは便利。
- ・わからないことを検索できる。また、仲間の意見を知ることができる。

○学習指導員について

- ・身分は会計年度任用職員で、1日3時間で週5日勤務
- ・市内小学校に9人配置されている。
- ・1日3時間の勤務で26学級をカバーすることは難しい。



北小学校での視察の様子

②中山中学校

(授業風景)

- ・数学、英語、社会の授業を参観した。電子黒板とタブレットPCが連動し、アンケートの回答の結果が、リアルタイムに反映されていた。
- ・社会科の授業ではタブレットPCを手にグループで話し合いをしていた。教師はタブレットPCから生徒の学習状況を把握し、個別の対応も行われていた。

(学校との懇談から)

- ・教師も生徒も端末に慣れなければならないが、慣れることを目標としていては端末を活用し人生を豊かにすることにはつながらない。夢見る想像力とそれを形にする想像力を求める資質能力がある。これまでもキャリアパスポートを作成し、なりたい自分への取り組みに取り組んできたが、すべて紙ベースであった。それをデジタル化し、3年間の取り組みが蓄積できる。
- ・3者懇談においてプレゼンテーションを行い、保護者の前でいきいきと発表できた。80数%の生徒が保護者に思いを伝えることができたという回答している。
- ・教職員は取りこぼしのない授業のための研修を行っている。これまでは白黒紙ベースの資料であったが、すべてタブレットPCで資料を作成することができる。色々なアプリに挑戦しながら、生徒の興味関心を高める工夫をしている。
- ・対話的に交流できるかが課題で、タブレットPCに目を落としているだけでは対話的な交流ができない。タブレットPCを持ち歩きながら、画像を見せ、英語で対話をしていくこともできるようになった。
- ・家庭の接続環境はすべてが整っているわけではない。公教育であることから100%を目指さなければならない。遠隔の授業を実施するためには課題が多い。ルーターを希望する家庭が17件あり、それらの家庭を置き去りにすることはできない。

(教師の声)

I C Tの効果

- ①わからない生徒を置き去りにしない
- ②調べ学習が簡単にできる
- ③教師の働き方改革につながった



中山中学校での視察の様子

6. 課題と考察

- ICTを活用した取り組みは、これまでの授業風景を大きく変えるものであり、今後さらなる可能性を持っていることを実感したが、教育長も指摘していた通り、従来の黒板を利用した学習との併用も重要だと考える。
- タブレットPCを家庭へ持ち帰ることによって、リモート授業やタブレットを利用した学習が家庭でも行うことができる。しかし、持ち帰りについては家庭のインターネット環境や、利用に関するモラルの徹底など課題が多い。
- 児童生徒は順応性もあり、ICTの利用に関してすぐに対応できると思われるが、教員の対応力が必要とされることから、研修等の充実が必要。
- 学習指導員の活用によって操作の格差の解消や、教員の指導力の向上につながっているとの声があり、学習指導員の役割はICT活用には重要となっていることから、学習指導員の活動時間の拡大が必要であると考え。